

**令和3年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和3年12月
海老名市立大谷小学校**

令和3年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

(1)教科に関する調査(国語, 算数・数学)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

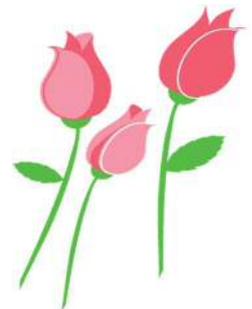
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査 (例)調査教科への興味・関心、読書時間、勉強時間の状況、ICT機器の使用状況、生活習慣 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

令和3年5月27日(木)



小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるかどうかをみる。
- ・資料を用いた目的を理解することができるかどうかをみる。
- ・目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるかどうかをみる。
- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができるかどうかをみる。
- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかをみる。
- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる。
- ・自分の主張が伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。
- ・目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
- ・文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる。
- ・文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 伝える目的や意図に応じて、資料を使って話すことができている。
- 作者が主張を伝えるために、どのような文章構成にしたかを正確に捉えることができている。

◆課題のある点

- 既習の漢字を、文章の中で正しく使うことに課題がある。
- 一定量の文章を決められた時間内に読み切ることに課題がある。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 既習の漢字を文章の中で正しく使えるようにするために、短文を作りながら漢字を書く練習を学年に応じて行う。
- 一定量の文章を決められた時間内に読み取ることができるようにするために、朝読書等を活用して、文章を読む活動をより多く取り入れる。



小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・問題場面から、必要な数量を選択し、事柄や関係を数学的に表現・処理することができるかどうかをみる。
- ・伴って変わる二つの数量の関係について考察できるかどうかをみる。
- ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解しているかどうかをみる。
- ・日常生活に必要な時刻を求めることができるかどうかをみる。
- ・基本図形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる。
- ・量の基本的な性質について理解しているかどうかをみる。
- ・図形の計量について、図形を構成する要素などに着目して捉え、筋道を立てて記述できるかどうかをみる。
- ・棒グラフから、データの特徴や傾向を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・データを二つの観点から分類整理し、表に表したり読み取ったりすることができるかどうかをみる。
- ・帯グラフから、複数のデータについての項目の割合を比較し、データの特徴を捉え、表現することができるかどうかをみる。
- ・設定した問題に対して集めるべきデータを判断することができるかどうかをみる。
- ・除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができるかどうかをみる。
- ・除法の意味について理解しているかどうかをみる。
- ・小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解し、考え表現することができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

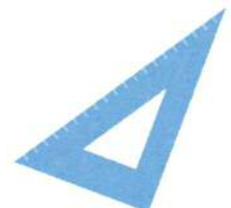
- 答えの求め方を言葉や式を使って、説明することができる。
- 表や帯グラフなどのデータを正確に読み取ったり活用したりすることができる。

◆課題のある点

- 直角三角形の面積を公式に当てはめて、正確に求めることに課題がある。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 基礎的・基本的な学習事項については、繰り返し授業で取り上げ、復習できるようにする。
- 面積や体積などを求める問題では、いろいろなパターンの図形を取り上げることで、底辺や高さに当たる辺を正確に捉えられるようにする。



児童質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

- 95%の児童が、「友達と協力することは楽しい」と回答している。
- 85%の児童が、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答している。
- 90%以上の児童が、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている」と回答している。

◆本校の課題と思われるところ

- 「国語の解答時間が足りなかった」と回答した児童が、全国平均と比較して2倍以上いた。
- 「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と回答している児童が少ない傾向にある。

生活について

◆本校のよかったところ

- ほとんどの児童が、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している。
- ほとんどの児童が、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と肯定的に回答している。

◆本校の課題と思われるところ

- 「自分にはよいところがあると思う」と回答している児童が、少ない傾向にある。
- 「地域の行事に参加している」と回答している児童が、全国平均と比べて低い傾向にある。

今後の具体的な取組について

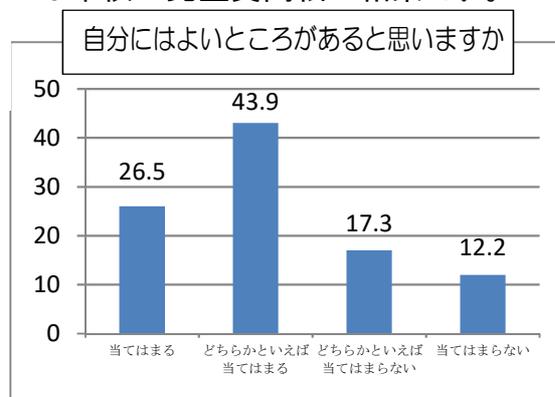
- 学習や生活において、多くの望ましい態度や行動が見られることは本校児童の大きな特長である。各ご家庭の養育が、大きく影響しているものと考えられる。学校においても、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と願う児童の気持ちに寄り添いながら、よりよい体験を積み上げていけるよう指導・支援に努めていく。
- 本校では、「対話をもとに一人一人が考えを深める」ことを重視した道徳の研究に取り組んでいる。今後も深く考え、学び合う活動を通して、自ら学ぶ意欲を持ち、自分の考えを表現する児童の育成に努める。
- 地域と学校の関わりについては、総合的な学習の時間や生活科等で、多くの方々のご支援をいただきながら学習を進めている。登校時のあいさつなど身近なふれあいを通して、地域の方々に支えられて生活していることを知り、感謝の気持ちが持てる児童を育成していく。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

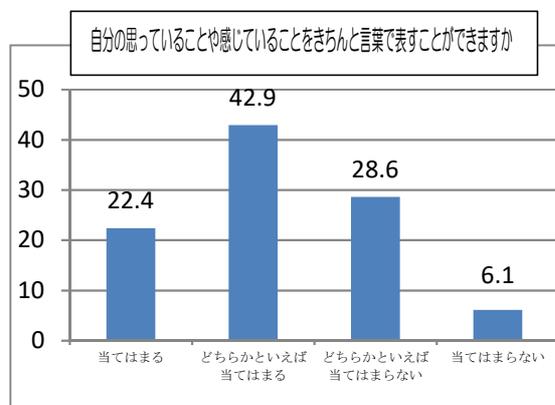
1 ほめることを大切にしましょう

お子さんのよいところや頑張ったところを積極的に認め、ほめることが、子どもたちの自己肯定感を高めることにつながります。



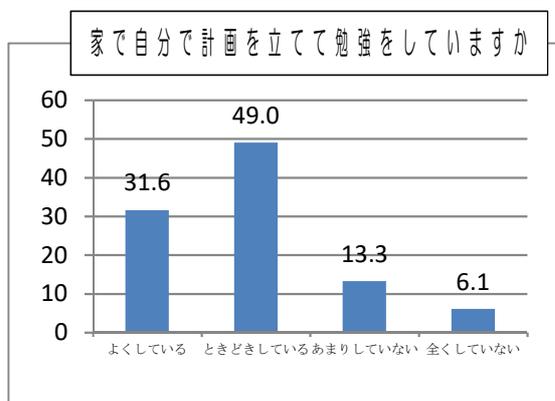
2 思いを大切にしましょう

子どもは自分の思いをうまく表現できないことがあります。大人が最後まで耳を傾けることが、自己表現を高めることにつながります。



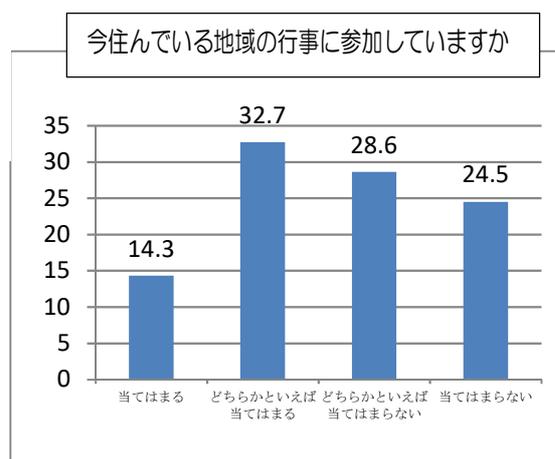
3 自分で計画を立てて、学習に取り組みましょう。

「10分×学年」の時間をめやすに、計画を立て、見通しをもって家庭学習に取り組むことが、進んで学ぶ姿勢を身に着けることにつながります。



4 地域の行事に積極的に参加しましょう。

コロナ禍で地域の行事があまり行われていませんが、行われるようになったら積極的に参加し、地域の方との交流の輪を広げましょう。



資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日摂る
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る
- ・コンピュータやスマートフォン等でゲームをする時間が短い

【主体的・対話的で深い学び】

- ・学習した内容を見直し、次の学習につなげている
- ・自分の考えが伝わるように工夫して発表している
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で学習計画を立てて学習をする
- ・家に本が多くある

【学級活動、道徳】

- ・学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決している
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりしている

【自尊感情・規範意識】

- ・自分には、よいところがあると思う
- ・自分でやると決めたことはやり遂げる

結果の公表にあたって

○公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

○公表することによって、保護者や市民の皆様に市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

○「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

